

平成30年
6月28日

病害虫発生予報 7月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

防護装備（マスク・保護メガネ・防護衣）をきちんと着用しましょう
～平成30年度茨城県農薬危害防止運動期間中（6/15～9/14）～

< 目次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水稻：いもち病（葉いもち）	1
【防除所レポート】BLASTAMによる葉いもちの感染好適日の状況について	1
【防除所レポート】クモヘリカメムシの産卵開始時期の予測	2
ナシ：黒星病	2
ナシ：ナシヒメシンクイ（第三世代幼虫）	3
【防除所レポート】ナシヒメシンクイの防除適期の予測	3
ナシ：ハダニ類	4
果樹共通：チャバネアオカメムシ	4
夏ネギ：黒斑病，ネギハモグリバエ	5
夏ネギ：ネギアザミウマ	6

【その他の病害虫】

水稻，サツマイモ，ナシ，ブドウ，夏ネギ，夏秋ナス，共通害虫	7
-------------------------------	---

II. 今月の気象予報 8

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel : 0299-45-8200

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/>
フェロモントラップデータ随時更新中

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（葉いもち）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、調査圃場の葉いもちの発病度¹⁾は平年並(本年値0.1, 平年値0.1)である。
 - 1) 発病度：病斑をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。
- ② 6月第5半旬までの葉いもちの感染好適日（BLASTAM²⁾による）の出現は、全県下において平年より多い（下記の防除所レポート参照）。
 - 2) BLASTAM：アメダスデータを利用した葉いもちの発生予測プログラム。
- ③ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないと予想され、発生を助長する条件ではない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 置苗は、いもち病の発生源となるため、現在水田に置苗がある場合には、水田及びその周辺に放置せず、持ち出して土中に埋める等の処分をする。
- ② 稲の葉色が濃い所や水口等を観察し、初発の確認に努める。
- ③ 例年、梅雨明けまでは発生が増加するため、現在発生がみられない水田でも注意する。
- ④ 発生がみられる水田では、発生初期に防除を実施する。なお、粒剤で防除する際は、必ず湛水状態で薬剤を散布し、1週間止水して湛水状態を保つ。

防除所レポート [BLASTAMによる葉いもちの感染好適日の状況について]

- ① 6月第5半旬までのいもち病感染好適日（BLASTAMによる）の出現日数は、アメダス地点15地点中13地点において平年より多い（表）。
- ② 葉いもちの発病は、感染好適条件が出現した日から7～10日後に始まると考えられる。曇雨天が続く等、発病の好適条件が見られる場合はいもち病の発生に注意する。
- ③ 各地点のBLASTAMによる葉いもちの感染好適日の詳細については、病害虫防除所ホームページで情報を随時更新しているので参考にする。

表 いもち病感染好適日の出現日数（6/1～6/25）

アメダス地点	県北					県央		
	北茨城	大子	高萩	日立	常陸大宮	水戸	笠間	
本年値	0	3	1	2	1	2	4	
平年値	0.4	1.4	0.6	1.0	1.2	0.9	1.3	

アメダス地点	鹿行		県南			県西		
	銚田	鹿嶋	土浦	龍ヶ崎	つくば	下館	下妻	古河
本年値	2	2	3	2	4	2	2	3
平年値	0.6	0.6	1.7	0.5	0.8	0.8	1.2	1.8

防除所レポート [クモヘリカメムシの産卵開始時期の予測]

[クモヘリカメムシの産卵開始時期]

- ① 6月下旬現在、有効積算温度から予測した産卵開始時期（本年値7月18日、平年値7月19日）は、平年並である（表）。

[防除上注意すべき事項]

- ① 農道や畦畔等のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類の生息場所となるため、除草を徹底する。ただし、出穂期近くになってからの除草は、カメムシ類を水田内へ追い込むことになるので、水稻の出穂2週間前までに終わらせる。
- ② 出穂が周辺よりも早い水田では成虫の飛来が集中しやすいので、発生には十分注意する。
- ③ 出穂期～穂揃期に多数の斑点米カメムシ類を認めた場合は、防除を実施する。
- ④ ミツバチ被害軽減のため、ミツバチの活動が最も盛んな時間帯（午前8～12時まで）の農薬の散布をさける。

表 クモヘリカメムシの産卵開始時期の予測

	常陸大宮市	水戸市	鹿嶋市	土浦市	筑西市	全県平均
本年値	7/23	7/18	7/19	7/12	7/10	7/18
平年値	7/24	7/20	7/22	7/14	7/13	7/19

ナシ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、果実における発病率（本年値0.1%、平年値0.4%）、発生地点率（本年値20%、平年値45%）ともに平年よりやや低い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病した果実及び葉は第二次伝染源となるため、見つけ次第除去し、土中深く埋める等、適切に処分する。
- ② 薬剤散布は、発病部位を除去した後に行うと防除効果が高い。
- ③ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

(ナシ 続き)

2. ナシヒメシンクイ (第三世代幼虫)

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、調査圃場のナシ果実において、被害果を認めず平年並である。
- ② 6月下旬までのフェロモントラップへの第一世代成虫の総誘殺数は、県予察圃（笠間市）および地区予察圃（かすみがうら市）で平年よりやや多く、土浦市および地区予察圃（笠間市、石岡市）で平年並、地区予察圃（小美玉市）で平年よりやや少ない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 被害果を見つけた場合は、土中深く埋める等速やかに処分し、成虫の発生を防ぐ。
- ② 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

防除所レポート【ナシヒメシンクイの防除適期の予測】

- ① ナシヒメシンクイ第三世代幼虫を対象とした防除適期は、**第二世代成虫の誘殺数がピークに達した日の1～2日後**である。
- ② 各地点の第二世代成虫の誘殺最盛期は、第一世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と有効積算温度から予測した。
- ③ 表中のかすみがうら市、土浦市、筑西市(旧下館市)については、今後、病虫害防除所ホームページで情報を随時更新するので参考にする。

表 調査圃場におけるナシヒメシンクイ第三世代幼虫の予測防除適期

地点	第三世代幼虫の予測防除適期 ¹⁾		
笠間市 (旧友部町)	7月15日	～	7月19日
笠間市 (旧岩間町)	7月11日	～	7月15日
小美玉市	7月14日	～	7月19日
石岡市	7月13日	～	7月17日
かすみがうら市	7月8日	～	7月13日
土浦市	7月8日	～	7月13日
筑西市(旧下館市)	7月8日	～	7月12日
筑西市(旧関城町)	7月12日	～	7月16日

1) 予測した第二世代成虫の誘殺ピークの1～2日後とした(6月28日現在)。

(ナシ 続き)

3. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、寄生葉率（本年値 0.03%、平年値 0.01%）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 10%、平年値 1%）は平年より高い。
- ② 気象予報によると、向こう 1 か月の気温は高く、降水量は平年より少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は、発生が多くなると防除が困難となるため、発生初期に防除を行う。
- ② 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ③ 他害虫を対象に IRAC コード 3A（ピレスロイド系）の薬剤を散布すると、ハダニ類やカイガラムシ類が増加する可能性があるため、散布回数は最小限に抑える。

果樹共通

1. チャバネアオカメムシ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、調査圃場のナシ果実において、被害果を認めず平年並である。
- ② 6月第4半旬までの予察灯への総誘殺数は、県予察圃（水戸市、笠間市）で平年よりやや多く、地区予察圃（かすみがうら市）で平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 夜温の上昇に伴い活動が盛んになり、果樹園への飛来が増加するので注意する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合には、活動が鈍い早朝に薬剤散布を行う。

夏ネギ

1. 黒斑病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、発病度^{*}（本年値 1.6，平年値 0.9）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 86%，平年値 31%）は平年より高い。

※発病度：病斑をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病初期の防除に重点をおき，その後の発病状況に応じて薬剤散布を行う。
- ② 薬剤散布の際は必要に応じて展着剤を加用し丁寧に行う。また，収穫前日数に十分注意する。
- ③ 薬剤耐性菌の出現を防ぐため，FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 肥料切れや多肥は発生を助長するため，生育状況に合わせ適切な肥培管理を行う。

2. ネギハモグリバエ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在，被害度^{*}（本年値 7.6，平年値 5.1）は平年よりやや高く，発生地点率（本年値 71.4%，平年値 71.2%）は平年並である。

※被害度：食害の程度をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。

- ② 気象予報によると，向こう 1 か月の気温は平年より高く，降水量は平年より少ないと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 今後は気温の上昇に伴って増殖が速くなるので，発生圃場では速やかに防除を実施する。
- ② 薬剤散布の際は必要に応じて展着剤を加用し丁寧に行う。また，収穫前日数に十分注意する。
- ③ 薬剤抵抗性の発達を抑えるため，IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

(夏ネギ 続き)

3. ネギアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、被害度※（本年値 25.4，平年値 28.1），芯葉の被害株率（本年値 81.1%，平年値 74.9%）ともに平年並である。

※被害度：食害の程度をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。

- ② 気象予報によると，向こう 1 か月の気温は平年より高く，降水量は平年より少ないと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 今後は気温の上昇に伴って増殖が速くなるので，発生圃場では速やかに防除を実施する。
- ② 雑草にも寄生するため，圃場周辺の除草を徹底する。
- ③ 薬剤散布の際は必要に応じて展着剤を加用し丁寧に行う。また，収穫前日数に十分注意する。
- ④ 薬剤抵抗性の発達を抑えるため，IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水稲	縞葉枯病	発生量:多い	6月下旬現在, 県西地域の一部圃場で発病を認めている。 県西, 県南地域におけるヒメトビウンカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率が, 11 地点中 10 点で 5%以上の高い値となった (平成 30 年 5 月 25 日発表 病害虫発生予察注意報第 1 号参照)。
	イネツトムシ	発生量:やや多い ~多い	6月下旬現在, 平年よりやや多い~多い発生である。葉色が濃い水田では発生に注意し, 発生が多い場合には, 幼虫が小さいうち (葉先が巻かれ始める時期) に防除を実施する。
	ニカメイガ	発生量:やや多い	6月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
サツマイモ	ナカジロシタバ	発生量:平年並	6月下旬現在, 平年並の発生である。
ナシ	ハマキムシ類	発生量:平年並 ~やや多い	6月下旬現在, 平年並~やや多い発生である。
ブドウ	褐斑病	発生量:平年並	6月下旬現在, 平年並の発生である。
	晩腐病		
	べと病		
夏ネギ	さび病	発生量:やや多い	6月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
	べと病	発生量:平年並	6月下旬現在, 平年並の発生である。
夏秋ナス	チャノホコリダニ	発生量:平年並 ~やや多い	6月下旬現在, 平年並の発生である。一部圃場で被害果が発生している。向こう 1 か月の気温は平年より高く, 降水量は平年より少ないと予想され, 発生を助長する条件である。
	アザミウマ類		6月下旬現在, 平年並の発生である。向こう 1 か月の気温は平年より高く, 降水量は平年より少ないと予想され, 発生を助長する条件である。
	ハダニ類		6月下旬現在, 平年並の発生である。向こう 1 か月の気温は平年より高く, 降水量は平年より少ないと予想され, 発生を助長する条件である。
共通害虫	オオタバコガ	発生量:平年並	6月下旬現在, フェロモントラップへの総誘殺数は, 土浦市および龍ヶ崎市で平年並, 筑西市で平年より少ない。
	ハスモンヨトウ	発生量:やや少ない	6月下旬現在, フェロモントラップへの総誘殺数は, 銚田市, 土浦市, 龍ヶ崎市, 筑西市で平年よりやや少ない。

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 6月30日から7月29日)

気象庁(6月28日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	10	30	60
	降水量	関東甲信全域	50	30	20
	日照時間	関東甲信全域	20	30	50

[概要]

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が少なく、後半は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 6月30日(土曜日)から7月6日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率80%

<2週目の予報> 7月7日(土曜日)から7月13日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率60%

<3週目から4週目の予報> 7月14日(土曜日)から7月27日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類^{*}(FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(平成30年4月26日発表)の防除所レポート参照

- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。